

第28回市民自治推進委員会 防災・環境部会会議録

(敬称略)

開催日時	令和5年11月22日(水) 18:00～19:00
開催場所	登別市役所 2階 第2委員会室
出席者	(部会長)川島 芳治 (部会員)坂東 百合子、遠藤 潤 (庁内委員)土門 和宏、菅野 淳 (事務局)大越 智輝、鳥海 秀充
欠席者	(副部会長)和泉 薫 (部会員)南 行雄、藤崎 信雄
議題	・市民自治推進委員会(全体会議)提案事項

【市民自治推進委員会(全体会議)提案事項について】

- ・市民自治推進委員会の全体会議にて提案する事項について「①市の施策などで説明して欲しい事項」と「②市民自治推進委員会全体で取り組む共通テーマの案」について部会内で検討を行った。

(事務局)

②について部会長と事前協議した中では、スライドに投影してる5つの案(子どもを育てやすいまち、観光と福祉、全市観光、防災都市、健康づくり)があった。

6部会のなかでも子どものための事業をテーマにしようという意見が多く聞かれている。

「観光と福祉」については市民自治推進委員会の仲川委員長からも登別として観光をどう扱っていくかという話もあり、また、登別市連合町内会でも「観光と福祉のまち」を謳っていることもあり、今後について注視されている。

部会としての思いもあると思うので、みなさんで協議を行っていただきたい。

(部会長)

登別は観光都市ということで、全市観光と案にも出ているが、観光に対する地域の温度差がある。私の住んでいる鷺別地区あたりでは、全市観光と言われてもピンとこない。

部会としては4番目の防災都市がテーマとして良いかと思う。津波などの高台避難場所がただの野原で、避難後の安全(荒天や厳冬期の対策)が確保されていないということがある。

(部会員)

私は福祉について焦点を当てたいと思う。高齢者が増え、免許返納が広く呼びかけられているが、免許を返納した際に移動手段がなくなる不安が強い。先日、市で試験的に公共交通空白地域にバスを走らせていたが、結局常盤町と柏木町だけであり、今後、国道横のバス通りから外れた場所には公共交通がないので、ほかの地区についてはどう考えているのかなどを聞きたい。

(事務局)

今回の常盤町と柏木町の市バスの運行は、駅やバス停の位置関係などから公共交通空白地域とされている地域であり、そこと既存の公共交通機関をどうつなぐかという目的から運行の実証実験を行ったものである。あくまでも既存の交通事業者と共存していく前提である。

(部会員)

実証実験ということなので、今後ほかの地域でも検討されるものか。

(事務局)

公共交通空白地域としては、実証実験を行った常盤町・柏木町のほか、登別本町の奥のあたりがある。アンケートでは、今すぐの不安よりは、今後免許返納をした場合に交通の便に不安があるという声が聞かれている。

(部会員)

ほかの地域で公共交通に関して困っている方がいる場合はどうするのか。報道などではオンデマンド交通や乗り合いタクシーの話などがあるが。

(事務局)

この度は市バスを使った実証実験であるが、それを踏まえ、将来公共交通空白地域にどういった交通手段がいいのかを今後検討していくことになる。

(部会員)

社会福祉協議会で実施しているアーニスでの買い物送迎支援について、自身も手伝いを行っているが、いまいち周知が足りないのか、利用者が減ってきている。利用者もボランティアも減っているため、市の方でも周知をしていただけないかと考えている。

(事務局)

今、福祉についてあげていただいたが、一つに絞るというわけではなく、部会として提案し、最終的に全体会議の場で揉んで最終的にテーマを決められればと思う。

部会長と一緒にこの5つのテーマを案として挙げさせていただいたが、特段不要と思われるものが無い限りは、多くの意見を全体会議に持って行きたいと思っている。

これらのほかに追加した方が良い案はあるか。

(部会員)

「子どもを育てやすいまち」という案はこの中でも良いものだと思う。

(部会長)

①の方についてだが、防災ばかりではなく、環境についても考えて行きたい。今、空き地や高台に太陽光パネルが多く設置され、景観を損なうという問題もあるだろうし、土砂災害についての心配もある。温泉方面の通りにはたくさんの太陽光パネルが設置されており、不安である。

部会としての意見が無ければ、こういうことを扱っていても良いのではないかと思う。

これらについて、市側から何か不足に思うことはあるか。

(庁内委員)

強いて言えば、高齢者施策に関して上がっていない程度かと思う。

(事務局)

少子高齢化対策として、子育てと併せて盛り込むのはどうか。

(庁内委員)

防災・環境部会ということであるため、令和5年度から本格的に市民も対象とした脱炭素事業を進めている。太陽光パネルなども脱炭素社会の事業の一つであるが、そのあたりも部会として一ついいテーマではないかと思う。

(部会員)

昨年度の会議の際に、ごみの分別問題について話があったがその後どうなったか。生ごみの分別処理の実験結果など、見えていない部分がある。

(庁内委員)

実証実験の結果、アンケートなども行ったが、手間が非常にかかるという意見があった。一番の課題は、微生物分解による排水の水質に問題があるということが挙げられる。今回の実証実験では、下水道の水質の悪化が懸念されたため、今のまま全市に広げるということとはできないという判断に至った。

(部会員)

(生ごみの処理には) コンポストも良いのではという意見もあったがどうか。

(庁内委員)

その意見を受け、令和5年度から電気を使って生ごみを乾燥させる生ごみ処理機の補助事業を開始している。

(事務局)

全体会議の際に、コンポストの助成のほか、省エネ住宅であるZEH住宅の補助についても話があった。

このように、脱炭素の取り組みについてもひとつ加えていいかと思うがいかがか。

(部会員)

温暖化などもあるため大事なものかと思う。

(事務局)

①についてどうか。これら（防災対策、沿道の環境美化、太陽光パネル、JR登別駅周辺の今後について、少子高齢化対策、脱炭素への取り組みについて）を部会としての案にできればと思う。

(部会長)

私としてはすぐに取り組めるのは沿道の美化についてかと思う。

(事務局)

まずは、正副部会長会議や全体会議に向けて、防災・環境部会としては今挙げた内容を話し合っていきたい。その際には部会長、副部会長も出ていただき、全体としてどうしていくかというところを深く話し合いながら、最終的に正副部会長会議と全体会議の中でテーマを決められればと思う。その中で聞きたいことを出していただいて、その後続いて施策など市からの情報提供に繋

げて行けばいいのではないか。

これだけテーマを挙げているが、また全体会議などの場で揉んでいければと思う。また、それらの結果をフィードバックしていきたい。

また正副部会長会議を終えた後に、防災・環境部会としてどういった取り組みができるかというところも含めてお話できればと思う。日程についてはまた正副部会長会議を経て改めて連絡したい。

(事務局)

これは市民自治推進委員会全体にかかることであるが、市民自治推進委員会は登別市総合計画第三期基本計画の市民検討委員会を母体として発足している。その第三期基本計画は平成28年度から令和7年度までの計画期間となっており、今後の第四期計画が令和8年度から実施されることとなる。それにあたり、検討作業が令和6年度、7年度で行われていくと予想される。これについては、市民自治推進委員会の皆さんにもご協力いただきながら一緒に考えていくこともあるかと思われるので、分かり次第、各部会や全体会議の中でお伝えさせていただく。

●次回の防災・環境部会は部会長と別途協議し、事務局より各部会員に日程を連絡することとなった。